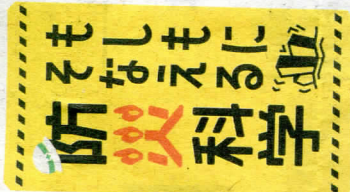


もうラスで 大地の異変を検知



2024年5月に起きた能登半島地震から1年。豪雨やその後の地震もあり、被災地では今も困難な状況が続いています。一日も早い復興を願ってやみません。

日本は世界でも屈指の地震大国です。いつでもどこでも大地震に襲われる可能性があり

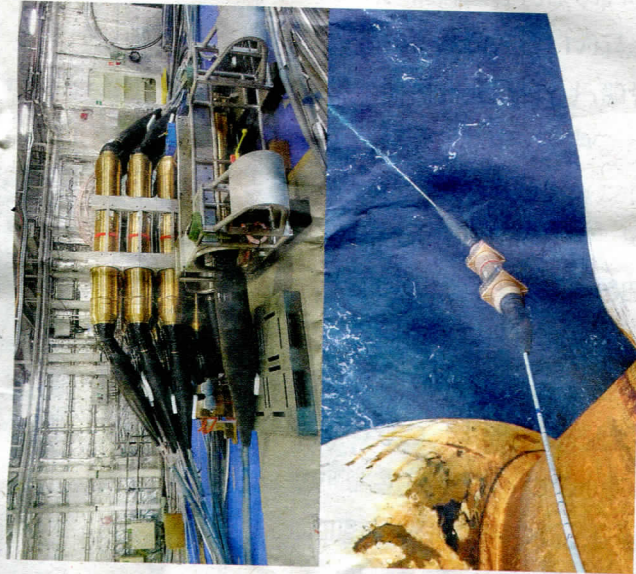
ます。その予測は難しいですが、

地震発生を瞬時に検知して情報共有する世界一の観測網が稼働中です。観測点の数は合計2100以上。陸だけでなく海の地震や火山の一部も監視しています。

観測網の愛称はMOWLAS (モウラス)。全国を網羅しようというところから名付けられました。正式名は陸海統合地震津波火山観測網。防災科学技術研究所という国の機関が構築しています。

気象庁による「緊急地震速報」にはMOWLASで検知した情報も活用されています。地

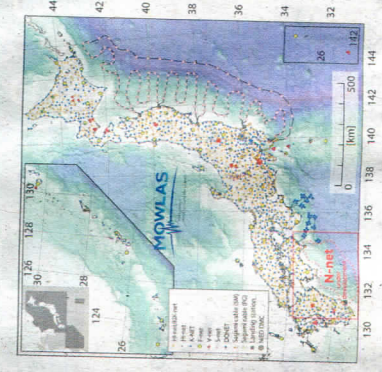
N-net 観測装置①。地震計や津波を観測する水圧計などが入っている② (防災科学技術研究所提供)



震の直後に大きな場所が把握でき、震源から遠い場合には、揺れの到達以前に情報を得ることで、身構えたり避難したりする時間を稼げます。

新幹線も、鉄道会社に情報が送られて、自動で止めるシステムが一部稼働しています。私達もMOWLASの情報をとっさの対応につなげたいものです。(科学ジャーナリスト・瀧澤美奈子)

全国の観測点は2100以上



MOWLASの観測点配置図 (右図、2024年10月現在)。左図は、新たに設置工事をしている高知沖(おき)から日向灘(ひゅうがなだ)にかけての南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)(防災科学技術研究所提供)